

アセスメント

計算（合成）

教材の特徴からのアセスメント

「計算（合成）」では、数字の足し算のつまずきを「数の概念」「数と量」「演算記号」「考え方」とし、それらを支援する教材としました。

・数の概念の理解

→(支援方法の例)「形」「量」「数え方」「読み方」の何が理解できないのか明確にする。

「形」：イメージで捉える。

「量」：ドットで捉える。

「数え方」：手の指を使って数える。

「読み方」：リズムに合わせた歌で声に出して歌う。

→(支援教材) 数詞「1～9の絵カード」

・数と量の関係と理解

→(支援方法の例) 数字を量で置き換え、量で示したドットや具体物を実際に数えてみる。

→(支援教材) まとまり「1～5の数」「1～10の数」

・演算記号（+、-）の理解

→(支援方法の例) 記号の形を指でなぞって触察する。数字と数字を「合わせる」が「+」で、数字から数字を「とる」が「-」だと意味を教える。

→(支援教材) 数詞「1～9触覚カード」

・計算の仕方の考え方

→(支援方法の例) 数を量で捉え、ドットを手がかりに演算を試みる。

数を数直線で捉え、ものさしを手がかりに演算を試みる。

5のまとまり、10のまとまりを意識し、「10と○」と置き換え、10を中心に演算する。

→(支援教材) 足し算：計算（合成）の全ての教材。引き算：計算（分解）の全ての教材。

学力のアセスメントについて

学力アセスメントは、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」についてを総合的に評価する必要があります。

学力面の実態を把握し、どのようなところにつまずきがあり、どのように指導していくのかを関連づけて考えていく必要があります。また、学力をみる上で心理的要因も忘れてはいけません。子どもにとって認知過程の問題は学習面に影響を与えている場合があります、サポート時の有効な手がかりです。

ここでは、学力アセスメントの内「計算する」「推論する」についてのチェックリストをあげました。

計算する、推論するについて

[計算すること]

- ・ 学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい
(三千四十七を 30047 や 347 と書く。分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている)
- ・ 簡単な計算が暗算でできない
- ・ 計算をするのにとっても時間がかかる
- ・ 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい
(四則混合の計算。2つの立式を必要とする計算)

[推論すること]

- ・ 学年相応の文章題を解くのが難しい
- ・ 学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい
(長さやかさの比較。「15cm は 150mm」ということ)
- ・ 学年相応の図形を描くことが難しい
(丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図)
- ・ 物事の因果関係を理解することが難しい
- ・ 目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい
- ・ 早合点や、飛躍した考えをする

このチェックリストは、2002年に文部科学省における調査研究会が実施した「通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」使用されたものです。

特別支援教育研究実践委員会「楽しく体験！ソーシャルスキル」のサイトでは、各項目4段階でチェックができ、自動判定も行えます。

学習面に関する困難を調べる項目：<http://www.e-kokoro.ne.jp/ss/sidou/ld/check.html>